



株式会社三和金属

2022 年度環境経営レポート

(対象期間：2022 年4月1日 ~ 2023 年3月31日)



作成日： 2023年5月1日

□ごあいさつ

今、資源枯渇が叫ばれる中、時代はまさに循環型社会の実現に向け、企業の技術革新と人々の意識変化が着実に進んでおります。

その中で我々スクラップ業界が果たすべき役割は、リサイクル率向上と安定供給も含め非常に大きくなってきます。

これからも日本の鉄鋼業を陰ながら支え続けていくことで、未来にわたって安心して生活できる環境づくりに寄与したいと思っております。

株式会社三和金属
代表取締役 三重 慶三

環境経営方針

当社の経営理念である「私たちは金属資源のリサイクルを通じて「循環型社会」形成の一翼を担い、人々が未来にわたって安心して生活できる環境創りに寄与します。」を基本に、リサイクル原料の製造を通じて、継続的改善を図る中で、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 電力、自動車燃料の脱炭素化を目指します。
3. 当社で発生する廃棄物の削減や再生利用に努めます。
4. 水使用量の削減に努めます。
5. グリーン購入やグリーン調達に努めます。
6. 金属類のリサイクルを通じて循環型社会に貢献します。



制定日：2014年10月28日

改正日：2023年5月1日

代表取締役 三重 慶三

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社三和金属
代表取締役 三重 慶三
- (2) 所在地
本社 大阪府東大阪市衣摺5丁目4番5号
アッセンブリーセンター 大阪府東大阪市柏田本町18番30号
駐車場 大阪府東大阪市衣摺3丁目21番
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 水谷 亜弥 TEL : 06-6720-6536
担当者 水谷 亜弥
- (4) 事業内容
金属リサイクル原料の仕入・加工・卸売、部品加工・組立
主要製品：鉄・ステンレス・アルミ等のスクラップ
金属屑業許可 大阪府公安委員会公認 第5031号
古物商許可 大阪府公安委員会公認 第622220145030号
計量証明事業許可 大阪府公認 第566号

- (5) 事業の規模
製品出荷額 296 百万円
主要製品生産量 1,898 トン

	本社	アッセンブリー センター	駐車場	合計
従業員 (人)	6	4	0	10
延べ床面積 (m ²)	700	90	260	350

- (6) 事業年度 4月1日～3月31日
- (7) 再生事業の内容

創業 1970年4月1日
法人化 2014年4月1日
資本金 2,100万円

処理フロー

金属スクラップ受入

 →

選別

 →

圧縮

 →

出荷

1,898t 1,898t

主要設備	数量
油圧ショベル	1台
自動圧縮切断機	2台
トラック	4台
トラックスケール	2台
X線分析計	1台

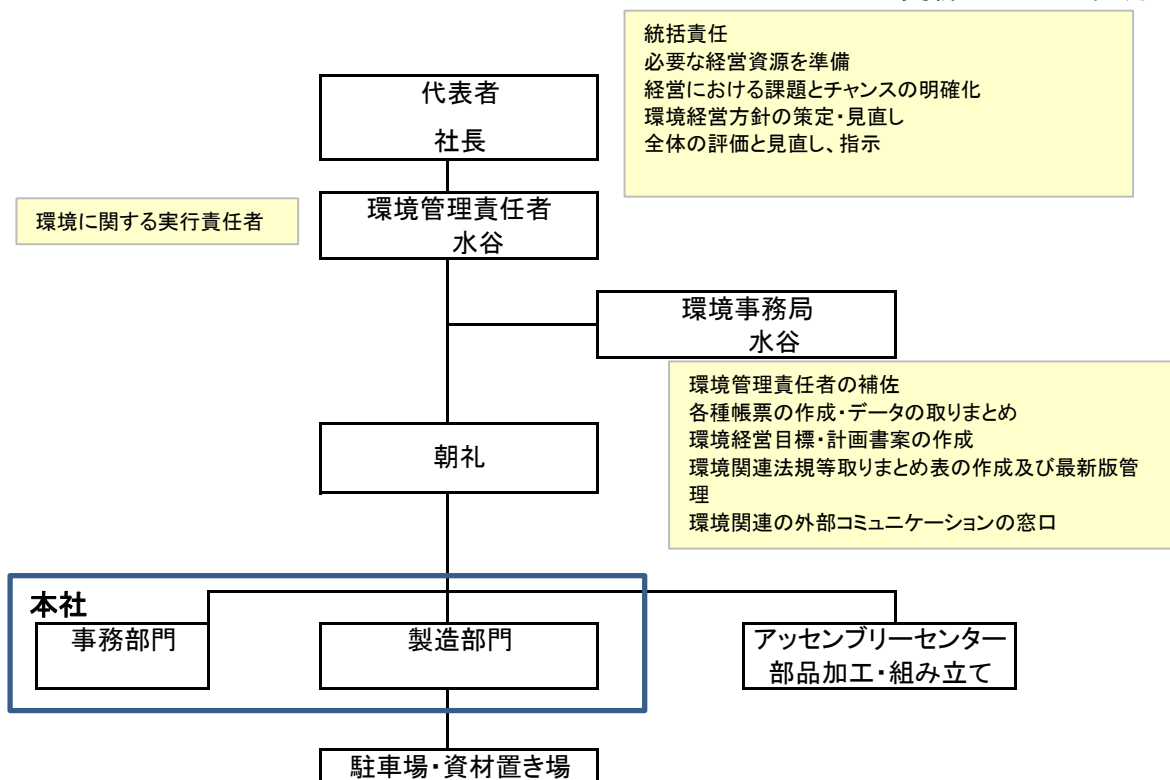
□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 株式会社三和金属
対象事業所： 本社
(全社認証範囲) アッセンブリーセンター
駐車場・資材置き場

活動： 金属リサイクル原料の仕入・加工・卸売及び金属部品の仕上げ・加工

□実施体制図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年2月10日



統括責任
 必要な経営資源を準備
 経営における課題とチャンス
 の明確化
 環境経営方針の策定・見直し
 全体の評価と見直し、指示

環境に関する実行責任者

環境事務局
水谷

環境管理責任者の補佐
 各種帳票の作成・データの取りまとめ
 環境経営目標・計画書案の作成
 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理
 環境関連の外部コミュニケーションの窓口

本社
 事務部門
 製造部門

アッセンブリーセンター
 部品加工・組み立て

駐車場・資材置き場

<部門長>
 環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施
 環境経営目標達成に向けた取組実施
 環境関連法規等遵守の取組
 緊急事態対応試行訓練の実施・記録

<全従業員>
 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚
 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加



リガク XL2-800

X線成分分析計

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	29,602	48,620	56,795
廃棄物排出量	kg			
一般廃棄物排出量	kg	240	240	240
産業廃棄物排出量	kg	0	0	0
総排水量	m ³	193	217	193

※電力の二酸化炭素排出量換算係数 0.311 kg-CO₂/kWh

※二酸化炭素排出量にはLPGを含みます。

※産業廃棄物は発生しておりません。

□環境経営目標及びその実績

項目	年度	2021年度 (基準値)	2022年度		##### (目標)	2024年度 (目標)
			(目標)	(実績)		
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	7,885	7,806 99%	7,476 95%	7,569 96%	7,491 95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂ 基準年比	35,770	35,412 99%	49,247 138%	32,193 90%	32,193 90%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	43,655	43,218	56,723	39,762	39,683
同上二酸化炭素排出量原単位	kg-CO ₂ /t	22.0	21.8	29.9	20.1	20.0
一般廃棄物の削減	kg 基準年比	240	240 100%	240 100%	240 100%	240 100%
水道水の削減	m ³ 基準年比	219	217 99%	193 88%	197 90%	197 90%
グリーン購入の推進		活動のみ	電気製品、事務用品、車両のグリーン購入の推進			
金属類のリサイクル材料出荷量	トン 基準年比	1,981	1,981 100%	1,898 96%	1,981 100%	1,981 100%

※化学物質は製造では使用しておりません。



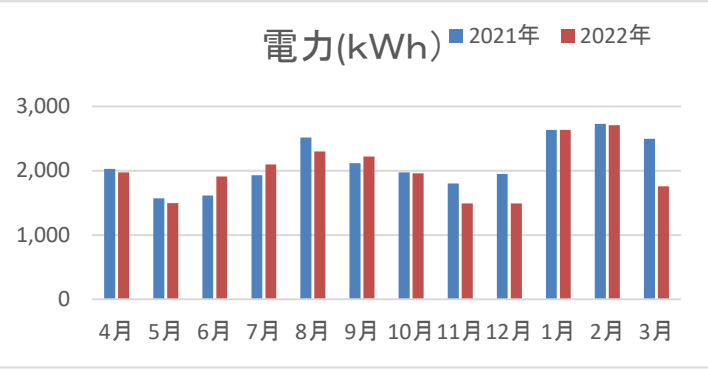


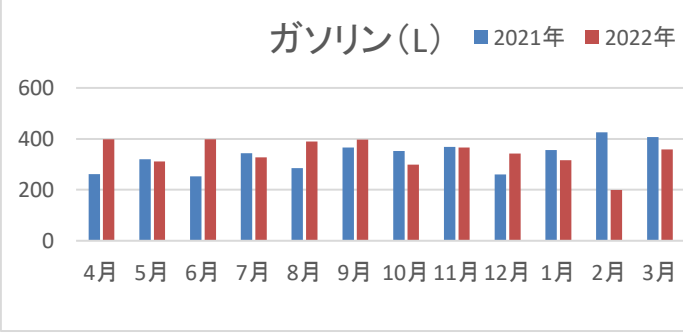
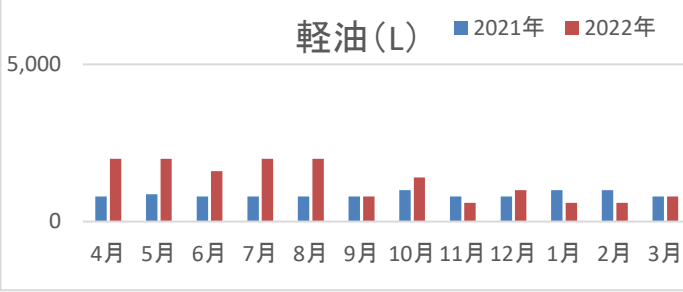
※LPGは少量のため目標に含みません。








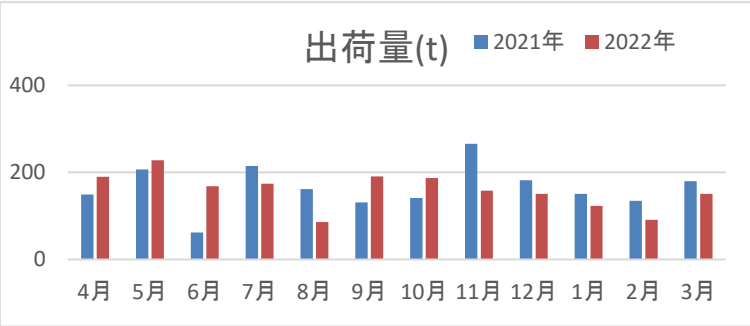


□環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

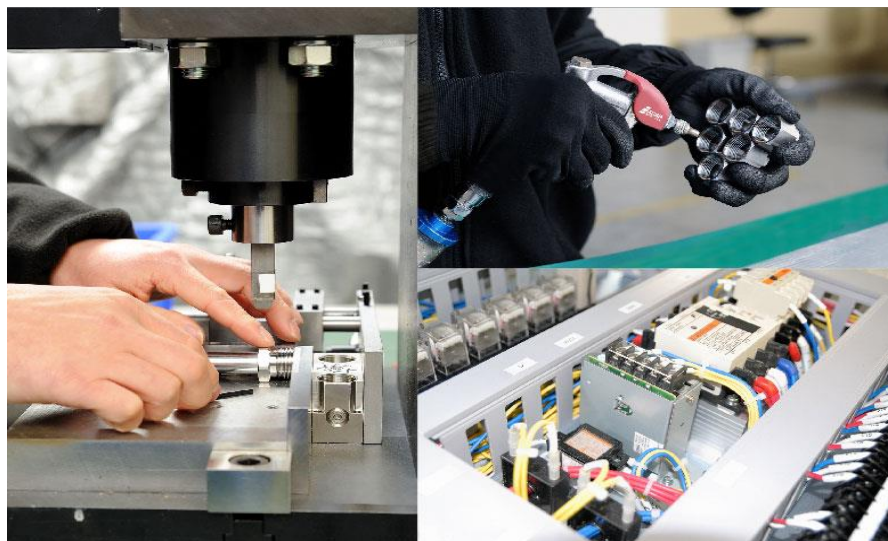
数値目標:○達成 ×未達成

○よくできた △まあまあできた ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容																
<p>電力による二酸化炭素削減</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>  </div> </div>		<div style="text-align: center;"> <p>電力(kWh) ■ 2021年 ■ 2022年</p>  </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>数値目標</th> <th>達成状況</th> <th>取組結果とその評価、次年度の取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アリゲーター機の使用時以外は電源を切る</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td rowspan="6">1年の後半に省エネへの取り組みが浸透したこともあり、基準年度と比べて、5%削減した。原単位でも基準年度の3.98に対し3.94と改善となっている。次年度も引き続き休憩時間の消灯、使用していない時の電源のOFFに加えて、作業の効率化により、作業時間の短縮に取り組んでいく。</td> </tr> <tr> <td>・スポットクーラーと工場扇の使用時以外は電源を切る</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>・作業の効率化</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>・エアコンの適正使用</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td>・照明のLED化</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	数値目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容	・アリゲーター機の使用時以外は電源を切る	○	1年の後半に省エネへの取り組みが浸透したこともあり、基準年度と比べて、5%削減した。原単位でも基準年度の3.98に対し3.94と改善となっている。次年度も引き続き休憩時間の消灯、使用していない時の電源のOFFに加えて、作業の効率化により、作業時間の短縮に取り組んでいく。	・スポットクーラーと工場扇の使用時以外は電源を切る	○	・作業の効率化	○	・エアコンの適正使用	○	・照明のLED化	○		
数値目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容																
・アリゲーター機の使用時以外は電源を切る	○	1年の後半に省エネへの取り組みが浸透したこともあり、基準年度と比べて、5%削減した。原単位でも基準年度の3.98に対し3.94と改善となっている。次年度も引き続き休憩時間の消灯、使用していない時の電源のOFFに加えて、作業の効率化により、作業時間の短縮に取り組んでいく。																
・スポットクーラーと工場扇の使用時以外は電源を切る	○																	
・作業の効率化	○																	
・エアコンの適正使用	○																	
・照明のLED化	○																	
<p>自動車燃料による二酸化炭素削減</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p>  </div> </div>		<div style="text-align: center;"> <p>ガソリン(L) ■ 2021年 ■ 2022年</p>  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>軽油(L) ■ 2021年 ■ 2022年</p>  </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>数値目標</th> <th>達成状況</th> <th>取組結果とその評価、次年度の取組内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・不要なアイドリングストップとエコドライブ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td rowspan="2">基準年度に比べて、トラックの台数も増え、本社での引取先及び納品先が増加したこともあり、38%の増加となった。次年度は、積載効率を考え配送の効率化に取り組んでいく。</td> </tr> <tr> <td>・集荷コースの効率化</td> <td style="text-align: center;">○</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	数値目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容	・不要なアイドリングストップとエコドライブ	○	基準年度に比べて、トラックの台数も増え、本社での引取先及び納品先が増加したこともあり、38%の増加となった。次年度は、積載効率を考え配送の効率化に取り組んでいく。	・集荷コースの効率化	○								
数値目標	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容																
・不要なアイドリングストップとエコドライブ	○	基準年度に比べて、トラックの台数も増え、本社での引取先及び納品先が増加したこともあり、38%の増加となった。次年度は、積載効率を考え配送の効率化に取り組んでいく。																
・集荷コースの効率化	○																	

一般廃棄物の削減		 11 住み続けられるまちづくりを	 12 つくる責任 つかう責任
数値目標	○	取り組みも浸透し前年度の数値を維持できている。 次年度は、できるだけ分別して再使用やリサイクルを図っていく。	
・裏紙使用を徹底する	○		
・帳票の見直し (3枚つづり→2枚つづりへ)	○		
水道水の削減		 6 安全な水とトイレを世界中に	
数値目標	○	人数の増加もあり、水道使用が多くなったが後半の節水活動の浸透により、前年度より12%削減となった。次年度も、継続して節水に努めていく。	
・日常時の節水励行	○		
グリーン購入の推進		 12 つくる責任 つかう責任	
<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ性能の高い電気製品の購入 ・燃費のよい自動車の採用 	<ul style="list-style-type: none"> △ ○ 	事務所の改装を行った際に、入口のガラスは二層ガラスの採用、LED電気の採用等グリーン購入を行った。今後も電気製品を買い替える時は、省エネマークを意識して選択するようにする。	
金属類のリサイクル材料出荷量		  	
		 <p>出荷量(t) ■ 2021年 ■ 2022年</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・収集先の拡大 (営業強化) ・切断加工の効率化 ・人材確保 (就労支援研修生の受け入) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ △ ○ 	取引先からの信頼や新規取引先の成果もあり、順調に出荷量も増加していたが、後半は取引先の在庫調整もあり、最終的には前年度の出荷額を維持することができなかった。次年度は、出荷額増に備えて生産の効率化を図っていく。	

□アッセンブリーセンターの紹介



□本社事務所の改修



入口ドアのガラスは二層化
照明はLED
椅子とテーブルは木質

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
 法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

廃棄物処理法	一般廃棄物
騒音規制法・振動規制法	剪断機（シャーリング）、切断機（砥石）、油圧プレス
自動車NO _x ・PM法	トラック5台
フロン排出抑制法	スポットクーラー1台、業務用エアコン1台
消防法	軽油200L、アセチレンガス

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
 なお、関係当局よりの違反等の指摘、訴訟は過去3年間ありませんでした。

□環境に関する外部からの苦情・要請等

環境に関する外部からの苦情や要請等はありませんでした。

□緊急事態対応訓練

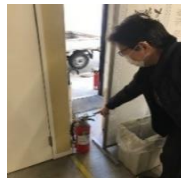
訓練実施日：2023年3月7日 午後1時～1時30分

内容：消火器の確認 避難訓練

訓練の状況：



消火器の位置確認



消火器取扱い訓練



緊急時のシャッター開閉の確認

評価： ・消火器の場所の再認識ができた。
 ・消火器は使用期限内であることを確認した。

手順書の変更： 必要なし

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日： 2023年5月1日

	課題	チャンス
内部	教育訓練 社内ルールの確立	在庫調整が可能で安定供給が可能 品質に信頼性がある 就労支援研究生の雇用
外部	仕入れ価格と販売価格の変動大きい 業務量の変動大きい	リサイクルサプライチェーンの中にある 半導体産業の盛況

【今回の評価結果と今後の経営視点】

①エコアクション取得の目的・近年金属資源のリサイクルの品質向上が世界的な課題となっております。その理由としてリサイクル時の再ゴミ発生、つまり金属取り出し及び除去の際のプラスチックなどの金属以外の処理が膨大になり、またおのずとして樹脂や断熱材などの分別分解の困難な物質の処理が世界各国の環境破壊につながるの見解から、日本から対輸出、特に中国・韓国含む東南アジアなどの国へのリサイクル資源の輸出に関してのトラブルがあとをたちません。この問題を解決していくためにはリサイクルに対しての正しい知識、つまり国全体が環境国家への成長・変貌を成し遂げる確固たる意識が必要となり、これら国家ベースの意識改革の先頭に我々リサイクル業界が置かれているという現状があります。まず相手を知る前に自らを知る、業界全体そして会社としてどれくらいのリサイクル率や分別回収、ならびに金属の再溶解へ道付けをできているかの数値を把握すること。この部分が不可欠な取り組みとなってきております。今後はこれら数値の全社を挙げての認識から意識浸透、そして各個人の取り組み、お客様への波及、そういった地道な活動を通して、リサイクルが世界を未来永劫人々の生活の一助となり続けられるよう、活動推進に力を注いでいかなければなりません。

②今年度はリサイクル出荷量が96%で目標達成となりませんが、今後新型コロナも落ち着いてきて生産効率も高められると考えています。また、アッセンブリセンターでは就労支援など社会貢献も含めた活動が定着してきました。環境負荷についてはアッセンブリーセンターを含めた全社でEA21に取り組み脱炭素社会・循環型社会の構築に貢献するよう努力したいと考えています。

環境方針： 変更 近年の動向を踏まえ表現を見直した。
 環境目標： 変更なし 今年度実績を考慮して目標を決定する。
 実施体制： 変更なし